

てつがく対話における子どもの思考の様相

－対話を通じた問いの変化に着目して－

久下谷 明

I 研究の目的と方法

- 1 新教科「てつがく」について
- 2 研究の目的と方法

II テーマ設定の理由と本時までの授業について

- 1 テーマ設定とその背景
- 2 学びの履歴
- 3 本時までの授業の概要

III 本時（2月14日，22日の授業）と考察

- 1 本時について
- 2 対話における子どもの思考の様相とその考察

IV 終わりに

- 1 D児の言葉を受けて
- 2 まとめと今後の課題

資料：授業プロトコル

I 研究の目的と方法

1 新教科「てつがく」について

本校では、2015年度から2018年度までの4年間、文部科学省の研究開発学校の指定を受け、以下の研究開発課題に取り組んできた。

【研究開発課題】「道徳の時間」と他教科の関連を図り、教育課程全体で、人間性・道徳性と思考力とを関連づけて育む研究開発を行う。そのために、自明と思われる価値やことがらを、「対話」や「記述」などの多様な言語活動を通して問い直し考える新教科「てつがく」を創設する。

(お茶の水女子大学附属小学校 (2019) 『平成30年度研究開発実施報告書 (第四年次)』p. 1)

新教科「てつがく」とは、自明と思われる価値や事柄について問い直し、考えることを通して、人間性・道徳性を育成しようとする教科であり、目標ならびに育てたい資質・能力を次のように挙げている。

【目標】

自明と思われる価値やことがらと向き合い、理性や感性を働かせて深く考えねばり強く問い続けたり、広く思いを巡らせ多様に考えたりすることを通して、民主的な社会を支える市民の一員として、創造的によりよく生きるために、主体的に思考し、前向きに他者とのかかわる市民性を育む。

【育てたい資質・能力】

- 価値やことがらに、疑問・問いをもち、それらについて、批判的・多面的・論理的に思考し問い続ける。
- 自らの思いや考えを伝えるとともに、異質性の尊重、多様性の受容を意識して、応答性のある関わりをもつ。
- 自他の思考の仕方の共通性や相違性に関心をもちながら、価値やことがらを比較し、概念化したり共通理解を得たりする。

(上掲p. 3)

2 研究の目的と方法

本研究の目的は、第5学年の新教科「てつがく」において、てつがく対話を行った際の子どもの思考の様相、すなわち“互いの考えを聴きあいながら、学級という共同体として、どのように「やさしさ」について探究を進めたのか”を記述することである。具体的には、第5学年のある学級で2019年1月21日から3月7日まで実施した『「やさしさ」って何だろう?』をテーマとした一連の「てつがく」の授業の中で、サークルの形となって対話を行った2月14日、22日の授業に焦点を当てる。そして、それらのプロトコルを作成し、そのプロトコルをもとに、対話を通じた問いの変化に着目しながら、子どもの思考の様相について記述し、分析を行う。

Ⅱ テーマ設定の理由と本時までの授業について

1 テーマの設定とその背景

本実践に至るまで、子どもたちの疑問や今の思いをもとにしながら「てつがく」の授業を進めてきた。1学期は問いを立てることを丁寧に行い、皆で決めた『幸せとは?』というテーマで対話を重ねた。2学期前半は、「てつがく」のイメージを共有しながら、『てつがくとは?』について考えた。また、対話後に自分の考えをかく際の「ふり返しシート」にあるふり返りの観点の検討を行い、自分たちでその観点を決めた。そして、2学期後半は、『当たり前とは?』というテーマで、自分たちで決めた探究の方法をもとに授業を進めた。

本単元では、3学期の最初に自分を見つめて考えた目標、「どんな自分でいたい、どんな自分でありたいか」をもとに、そこに書かれた言葉の意味を問うことから“てつがくする”ことを始めたい。例えば、“友達思いでやさしい自分でありたい”や“低学年に優しくしている自分でありたい”、“誰に対してもやさしく、思いやりの気持ちを持ち、・・・”のように、「やさしさ」を目標に書いている子がいる。また、連絡帳に書かれた日々のふり返し（図1）や1週間に1回書き綴る絵だより（図2、図3）にも、「やさしさ」に関わる内容が書かれている。そして、自分たち学年の個性として、「やさしい」を挙げる子が多い。

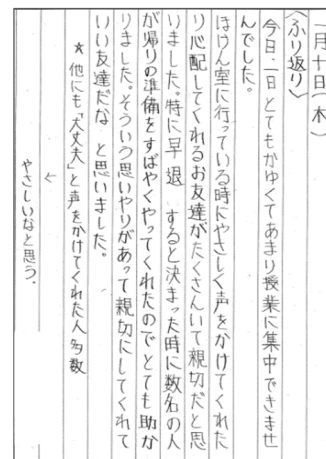


図1：連絡帳のふり返し

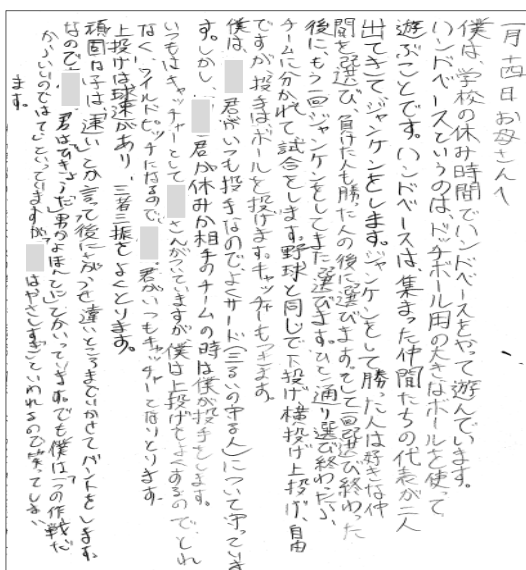


図2：絵だより

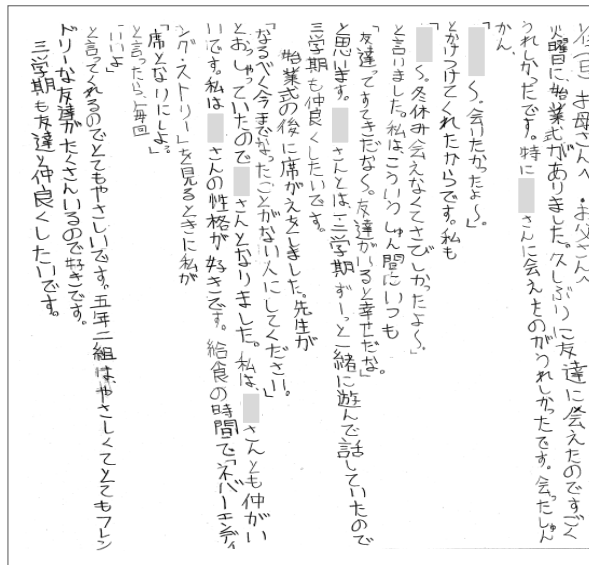


図3：絵だより

「やさしさ（やさしい）」という言葉はよく使われるが、そもそも『やさしさ』とは何だろうか。この問いは、私自身、事あるごとに自問し、時に悩みながら考えてきた言葉の一つである。

目の前の子どもたちとは、クラス替えがありつつも4年生から一緒に過ごしてきた。成長とともに、当然いろいろなことがあるが、変わらず素直で心優しい子どもたちである。その子どもたちが、本実践のおよそ1ヶ月半後には6年生、最上学年となっていく。これから先、6年生としての行動が求められたり、他者との関係の中で悩み、揺れ動いたりすることが増えるに違いない。相手の望むことをすることがやさしさだろうか。相手のことを思い、相手のために行動することがやさしさだろうか。「『やさしさ』って何だろうか？」と問い、それぞれが思う『やさしさ』の違いを感じ、今の自分や自分たちを見つめながら、対話を通して、皆（教師も子どもも）で考えていければと考えた。

2 学びの履歴

○1月21日（月）朝活動

『やさしさ』って何だろう？という問いに対して、サークルの形になり、皆で対話する。その後、「やさしさ」についての自分の考えをかく。

→記述をまとめて冊子にして配り、個々に読む。

○1月31日（木）朝活動

「やさしさ」との関連で、「ひどさ」と「きびしさ」の言葉の持つ意味を確認する。また、探究の方法を決める。

○1月31日（木）1・2校時

『やさしさBOOK』（「やさしさ」のイメージや「やさしさ」を感じる具体的な行動などを集めて作成する冊子）の作り方を確認し、その作成に取り組む。

→朝活動なども使って必要に応じて取り組む。

○2月7日（木）2校時

『やさしさBOOK』をファミリー、そして学級の中で共有する。その後、『やさしさBOOK』の作成、共有を通して考えたことや思ったことを書く。

○2月14日（木）2校時

※本時①

これまでの活動を通して生まれてきた問いについて皆で考える。

○2月22日（金）※本時②

前時の対話を受けてさらに皆で考える。

○2月28日（木）2校時

『やさしさ』に対する今の自分のイメージや考えを『やさしさBOOK』にかき加えて完成させる。

○3月7日（木）2校時

一連の授業をふり返り、自己評価を行う。

3 本時までの授業の概要

(1) 「やさしさ」って何だろう？（1月21日（月）朝活動）

『やさしさ』って何だろう？という問いに対して、サークルの形になって対話した。以下は、その時の子どもたちの言葉（考え）である。なお、下記の言葉は、VTRを観て、必要に応じて要点をまとめながら筆者が記述したものである。したがって、きちんとしたプロトコルの形にはなっていない。

C：僕は、やさしさの中に“ひどい”というのがあると思ってる。

C：今の考えに賛成で、やさしさの中には、“ひどさ”みたいながあると思う。

C：やさしさって、家の人が〇〇をしなさい！とか言って、その時はひどいっていうか…う～んなんて言うんだろう。でも、それがあとになって、時間がたってわかるやさしさがあるんだと思う。

C：“あまいやさしさ”と“きびしいやさしさ”があると思う。

C：やさしい形っていうか、ふんわりしている感じ。

C：やさしさは思いやりだと思う。

C：やさしさって、今言ってくれたように、思いやりというか、誰かのためにしてあげるとか、誰かがして欲しいことをしてあげるみたいなことだと思う。

C：さっきのDくんに賛成で、やさしさって、何て言うか、やさしさだけでは、本当のやさしさではないと思う。

C：やさしさの中には、〇〇をあげるみたいなやさしさがあるけど、きびしさっていうか、きびしくしてくれるというのは、自分のことを思ってくれていて。例えば、何かのコーチとかで、厳しく言ったりするけど、それはコーチのやさしさ。

C：やさしさの中にひどさ。大人になってやさしさってわかることもあると思う。その時はひどいと思っても、大人になってわかるやさしさがあると思う。逆もあるんじゃないかって、やさしいと思っても本当はやさしくないみたいな。

(2) 「やさしさ」って何だろう？（1月31日（木）朝活動）

前日に、1月21日（月）の学級全員の記述を冊子にして配り、読む時間をとった。記述を読むと、「ひどさ」と「きびしさ」という言葉が、個々によって異なる意味で使われていたことから、朝活動の時間を使って、それぞれの意味を確認した。

そして、「きびしさ」は「やさしさと関係」しており、「相手を思う気持ちが多い」という意見をもとに、2つの言葉の持つ意味の違いを意識しながら使っていくことにした。（しかしながら、これ以降も、子どもによって、これらの言葉の違いを意識して使っていなかったり、それぞれの言葉に込める意味に微妙な差異が見られたりした。2月14日（木）の対話では、それが明らかになり、さらに言葉の違いを考えながら対話が行われていくことになる。）

また、このようなやりとりの中で、D児は、「ぼくにも“ひどいところ”がある。」と発言する。この言葉を受けて、「自分の中に“ひどさ”はある？そして、そう感じる時ってどんな時かな？」と、教師から子どもたちに問いかけた。グループごとに話す時間をとったが、突然の問いかけで、この時点では、“自分の中にあるかもしれない「ひどさ」とは何かを考えることや、それを見つめていくことに難しさを感じているようであった。

その後、内容をかえ、「探究の方法」を皆で考えた。事前に「テーマ（問い）に対する考えを深めていくために、どのように考えていったらよいですか。」について、個々に考えており、それをもとにしながら検討していった。過去の経験から『やさしさBOOK』作りを挙げる子が多く、まずは、『やさしさBOOK』作りとその共有を行い、その後、さらに対話をしていくことに決めた。

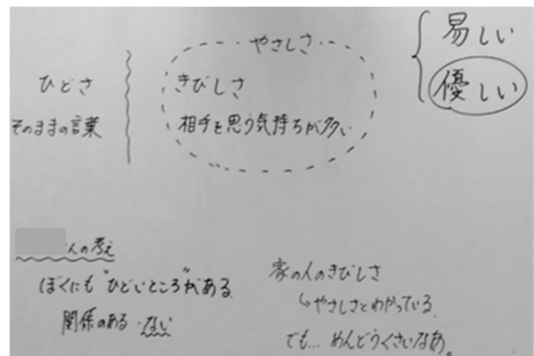


図4：やさしさ、きびしさ、ひどさに関する板書

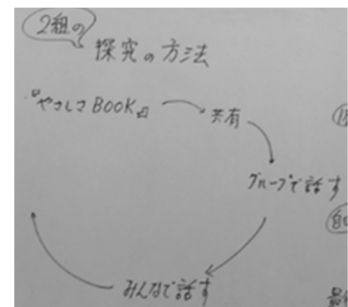


図5：探究の方法に関する板書

(3) 「やさしさBOOK」作りに取り組む（1月31日（木）1・2校時）

図6のように、『やさしさBOOK』の作り方を確認し、作成に取り組んだ。

ある子は、“やさしさ”を色で表すと…、形で表すと…”, “やさしさ”を感じるのとはどんな時?”, “やさしさ”を分類すると…イメージでの「やさしさ”, “行動としての「やさしさ”, “あとから気づく「やさしさ”, “全体への「やさしさ”のように、自分で観点を挙げて、自分の考えをまとめていった。また別の子は, “やさしい「やさしさ”はどういう時に思うの?”, “身の周りの人にインタビュー！やさしさって?”, “やさしさの色や形は?”, “やさしい人ってだれ?”, “怒ってくれるってやさしさに入る?”, “怒ってくれるってきびしいって言う?”, “きびしいってやさしさに入る?”, “きびしいとひどさってちがう?”のように、問いを立ててやさしさについて自分の考えをまとめていった。

＜やさしさBOOKのつくり方＞	
1ページ目（表紙）	…「やさしさ」のイメージを絵にする
2ページ目（表紙裏）	…「やさしさ」に対する今の自分の考えをかく
3ページ目	…自己紹介
4ページ目以降	…やさしさ集め（形式、内容などは自由）
最後	（裏表紙裏）…「やさしさ」に対する対話後の自分の考えをかく （裏表紙）…「やさしさ」のイメージを絵にする

図6：『やさしさBOOK』のつくり方

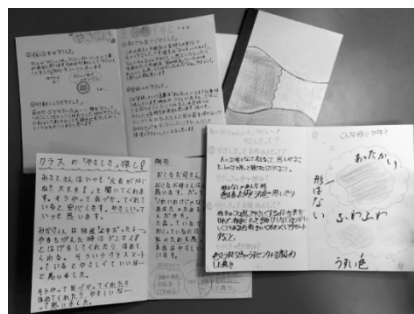


図7：作成した『やさしさBOOK』



図8：作成の様子

てつがく対話における子どもの思考の様相

なお、何も書いていない画用紙を冊子の最後に1枚貼っておき、一連の対話後に、まとめとしてその時の考えをかくとともに、「やさしさ」のイメージを絵に表すことに取り組む。そして、最初の自分の考え（表紙・表紙裏）と対話後の自分の考え（裏表紙・裏表紙裏）を比べながら、自分の学びをふり返り、最終的には自己評価を行っていくこととした。



図9：共有の様子

(4) 『やさしさBOOK』の共有（2月7日（木）2校時）

『やさしさBOOK』をファミリーで共有して、感じたことを聴きあった後、自由にペアを作りながら、学級の中で共有していった。その後、『やさしさBOOK』の作成や共有を通して考えたことや感じたことをふり返りに書いた。

Ⅲ 本時（2月14日、22日の授業）と考察

1 本時について

本時は、2月14日（木）と22日（金）の2回の授業である。いずれもサークルの形となって『やさしさ』って何だろう？」をテーマとした対話を行った。そのプロトコルをもとに子どもの思考の様相を記述し、考察を行う。その際、対話を通じた問いの変化に着目しながら、子どもたちがどのように「やさしさ」について探究をしていったのかを記述していく。

なお、以下に子どもの発言を「」（）で示しているが、「」内は発せられた言葉、（）内の“番号・アルファベット”は資料のプロトコルで示した“番号・アルファベット”に対応している。

2 対話における子どもの思考の様相とその考察

(1) 問いの変化とそれに対する子どもたちの考え

① E児の問い『厳しいほどやさしさって濃くなるの?』について考えていく場面

前回の対話後の記述の中で、E児は次のような思いを書いていた。そのため、その記述を教師から紹介する形で皆に問いかけ、E児の問いに対する考えを聴きあうことから対話をスタートした。

「私はファミリーで話題になった、『厳しいほどやさしさって濃くなるの?』ということについて、みんなの意見を聞いて、話し合いたいです。みんなはどう思いますか。」

この問いに対して、F児も同様に「厳しいほどやさしさが濃い」(6F)と発言するが、それに対して、G児は「厳しいほどやさしいはちょっと違うかな」(8G)と疑問を投げかけている。そして、I児もまた、「厳しさが行きすぎると、それはやさしさではなくて、本当の厳しさみたいになっちゃう。やさしさが入っていない厳しさ」(15I)と話し、「反対ではないんですけど」(15I)と言いつつも、厳しいほどやさしさが濃くなるという考えに疑問を持っているようであった。

また、J児は、やさしさが濃くなることを強くなると捉え、赤の他人がやさしくするよりも、親がやさしくするほうが、やさしさは強くなるのではないかと考え、「身近にいる人ほどやさしさが強くなると思う。厳しさも。」(16J)と発言し、関係性によってやさしさや厳しさの強さが変わると考えている。それを受け、K児は「やさしさが濃くなる」を言いかえると、「信頼性が深くなる」と思って」(19L)と話し、やさしさの濃さと信頼性の深さとを関係づけて捉えている。

その後、L児が次のように発言をし、これまでのやりとりやこの発言をきっかけとして、子どもたちは、再度、やさしさと厳しさ、ひどさの関係について、考えていった。

L児「ちょっと話が戻るんですけど。濃くなるというのは、他人に対するやさしさの思いが強くなってくんだと思って。…(中略)…それこそ、やさしさが濃くなるとともに、ひどさがそれと一緒に増えていくっていう連動していると思うんですけど。やさしさを感じる気持ちが、増えていくと、その中のひどさもだんだん増えていくから、そうだと思います。」(19L)

なお、Q児は、上記L児の発言後に、厳しいほどやさしさが濃いのかについて、「やさしくされる時もする時も、自分の未来のために、相手からされる時は厳しくされるし、自分が、やさしくする時も厳しく、何て言うの、採点する観点みたいなのを厳しくすると、その人が後々楽になるし、やさしさが濃くなるというか深まると思うんですけど。やさしさの密度が深まると全体の量が増えて。そうすると厳しさも増えるから、やさしいとより感じる時こそ、厳しさというのは、どんどん多くなってくる。」(30Q)と語っており、Q時は、やさしさの濃さを、密度の深まりというイメージで捉えていることがわかる。

② やさしさと厳しさ、ひどさの関係について再度考えていく場面

上記のL児の考えに対して、S児は「やさしさが大きくなるとひどさも大きくなっていったんですけど。私はそこにあまり賛成じゃなくて。やさしさにひどさがあったら、そもそもそれはやさしさじゃないんじゃないかなって思っただけ。そうじゃなくて、ふつうにやさしさが大きくなったら、ひどさは減っていくとあっていて。」(33S)と発言し、やさしさが大きくなると、それに伴ってひどさも大きくなるのではなく、その逆で、ひどさは減っていくという考えを語っている。

さらに、厳しさとひどさの違いについて、G児は「厳しさは相手を思う気持ちがあるけど、ひどさは相手を思う気持ちがない」(37G)と述べ、相手を思う気持ちがあるかないかをその違いとしており、U児は「厳しいというのは、怒る時とか厳しいけど、ひどいというのは、暴力とか人が嫌がるようなことをするのがひどい」(38U)と述べ、表れる行動に着目してその違いを語っている。

Q児は、厳しさとひどさについて、「ちょっと言われたら嫌だな」という点や「理由があってそういうふうにしてやる」点の共通することから、大きな分類的には同じように思えるが、「厳しいの方が、相手のことを思って、やり方をかえているっていうのかな。相手に、それこそむかついたから殴るとかじゃなくて、『こういうところが嫌だからやめてよ』って厳しく言うかもしれないけど。言葉は悪いけど、殴ったり蹴ったりするというのは、ひどいに入るから、やり方が変わる。」(40Q)と述べ、先のG児(37G)やU児(38U)の考えを取り入れながら、共通点と相違点について自分の考えを語っている。

また、厳しさとひどさの関係に関する捉えとして、O児は、「厳しさとひどさは完全に同じじゃないんですけど、一部重なっているところがあって」と発言し、その考えを、具体例を挙げながら次のように説明している。

O児「厳しさは強くなっていくとひどさになって。野球とかでも、時々ニュースであって、監督とか、球が打てなくて暴力したりがあるじゃないですか。それは、僕はひどさだと思うんですけど。その一歩手前とか、その、蹴るとかの手前だったら厳しさだと思うんですけど、蹴るとかしちゃうと、逆に、それを通して野球ができるようになるかもしれないけど、選手に対して傷つけちゃったり、心が傷ついちゃったりするから。厳しさが強くなるとひどさになると思う。」(41O)

その後、ひどさと厳しさの違いとして、G児(37G)の考えである“相手を思う気持ちがあるかどうか”という考えを受けて、K児やW児、D児が下記のように自分の考えを語っていった。

K児「私的には、ひどさっていうのは結構自分勝手な行動で、厳しさって、仲間とか友達とか他人を考える行動だと思う。」(48K)

W児「私はGさんの考えに賛成なんですけど。私はやさしさって相手の立場に立って思うことが大事だから、厳しさはそれがあるから、やさしさの中に厳しさは入るけど、ひどさにそういうことってあまりないから、やさしさの中に入らないんじゃないかなって。」(49W)

D児「厳しさはひどさはちがんじゃないかなと思うんですけど。僕にとって厳しさは、人のためにやっていることで、ひどさは、…(略)…」(50D)

さらに次時では、前時の対話後に書いた子どもたちの記述(考え)を紹介しながら授業をふり返った後、前時の続きである「やさしさと厳しさ、ひどさの関係」について考えることからスタートとした。

それに対して、例えばH児は「私は、やさしさときびしさが近くて、やさしさとひどさはちょっと違うものだと思うんですけど。…(中略)…厳しさの中にくらやさしさが入っていても、厳しくなりすぎると、ひどさになってしまうんじゃないかなと思う。」(8H)と語り、それを受けてW児も「私は厳しさは、Hさんと同じで、やさしさに近くて、相手のことを思ってする行動で、ひどさは自分勝手な行動をすることだと思います。」(9W)と語っている。

その後、下記に示すQ児とX児の発言をきっかけとして、“やさしさとしての厳しさとして言ったことでも、相手はひどさと受け取ってしまうのではないか”について考えていくこととなる。

③ 厳しさを、ひどさと受け取ってしまうのではないかと考えていく場面

Q児「…(略)…それで、何か、私が間違っていること、きびしさという漢字はありませんとか、間違っていることを言っていたら、違うんじゃないって言うことあるじゃないですか。それって、その人が勘違いしてたりとか、していることを、他の場所で恥ずかしい思いとかをしちゃうと思うから、こうだよって教えてあげたりするのって自然に出てきたりする言葉だと思うけど、ひどさってというのは、その、『そんな間違っているでしょ』とか『絶対違う』とか、少し考えて、あつこの人にこういうことを言おうというって言ったりとか、考えて行動したりしないといけないことがひどさなんじゃないかなって。」(26Q)

X児「関連。えーと、間違っていると指摘した本人は、これは厳しさと思っていても、言われた人には、それはひどいなあって思うこともあるだろうし。例えばさっき言った漢字の間違いの時も、まあ、何も考えずに『それ違うんじゃない』って強く言っちゃったりしたら、うっかり出た言葉で指摘した人は厳しさだと思っているけど、言われた人は、強すぎてひどさにしか聞こえないということもあるから、Qさんの言っていることは違うと思う。」(27X)

上記のように、X児は、“厳しさとして言ったつもりでも、言われた人がひどさにしか聞こえないということもある”と述べ、やさしさとしての厳しさも、受け取る側によってその意味合いが変わり、ひどさになってしまうことを指摘している。このX児の発言に対し、何人かが頷き、その考えに共感している様子であった。そのうちの1人であるK児は、次のように語っている。

K児「…(略)…もともとはきびしさで言ったはずなのに、ひどさと捉えちゃったというのはわかるような気がして。…(略)…家では、そういうきびしさで捉えていたのに、学校ではひどさってなっちゃうとか。何かそういうことがあるから、何か、わかるような気がする。」(31K)

その後、教師から「これを言った時に、自分はよかれと思って厳しさと思っているんだけど、相手にとってはひどさと聞こえる。例えば、Cさんはそれを気にすると書いてあったよね。皆さんはどうですか。自分の普段の生活を見て、見つめた時に、そんなことを思ったりする？」と問うた。すると、大半の子どもが「思ったりする」と答えたため、さらに、「それってどんな時？もうちょっと具体的な場面でこうだよってある？ちょっとさあ、ファミリーでその場所でもいいから、少しちょっと話してごらんよ。」と伝え、ファミリー（3人～4人のグループ）で話し合う時間をとった。

④ M児の考え「単刀直入に言う」ことについて考えていく場面

あるファミリーのやりとりを聴いていると、そこではM児とH児の間で意見対立のようなことが起こっていた。そこで、学級全体でのサークル対話に戻った際に、はじめに、M児とH児にそれぞれの考えを話してもらった。

M児「えっと、あの一、僕は、その、厳しさとか、ひどさ？ひどさっていうものはいちいち考えなくても、自分が思ったことを単刀直入みたいな感じで言った方が、人のためにもなるし、自分のためにもなるし、そうなるちょっと成長するから、単刀直入に、やっぱり、そういう考えないで、相手のことを考えないで、ちょっとは考えるけど、考えすぎないで言った方がいいのかなって思います。」(61M)

H児「単刀直入に言う相手のためになるというのは私はいいと思うんですけど、やっぱり、相手がもしそれで傷ついたら、相手のためになるっていうのが、何かちょっと違ってきちゃうんじゃないかなって思った。」(68H)

H児「やっぱり相手のことを考えて、その上で、相手のためになることを言う、言わないと、相手が傷ついちゃったら、あんまり意味がなくなっちゃうんじゃないかなって思った。」(70H)

M児「えっと、えっと、その傷ついたなら、傷ついた側、傷ついたなら、傷ついた人に謝れば、そこで終わることだし。」(71M)

上記のやりとりをもとに、その後、“自分が思ったことは単刀直入に言ったほうがよいか”について、子どもたちは考えていった。

I児は、「M児の意見に賛成」とし、その理由として「危険なことをしようとしている時に、考えていたら、友達が後から怒られちゃったりするから、まあ、その、そういう時は、ちゃんと言った方がやっ

ばり、M君が言ったように、自分のためにもなるし、相手のためにもなるから。」(91I)と語っている。

それに対してL児は、自分のサッカーの試合でのシュートミスをした場面での声掛けの例をもとに、「ちょっと言い方を変えるだけでも変わってくるから、僕は考えたりはする。」(92L)と自分の経験と結び付けながら考えを語っている。さらに、O児は、「Mくんがさっき言ったことに反対なんですけど、別に謝っても、ちょっとすごい傷ついちゃったら、その人は、謝っても、許さなかったりするかもしれないから、ちょっと、その一、Mくんの言ってたのはちょっと食い違っちゃうのかな。」(093)と語り、M児の考えに対して疑問を投げかけている。

このように、考えすぎないで単刀直入に言った方がよいか、伝え方を考えていった方がいかというやり取りに対して、Q児は次のように語っている。

Q児「Mくんが言った単刀直入に言うというのと、Hさんが言った少し考えてから言うのも、どちらもメリットデメリットがあると思うんですけど。自分が、X君が言ってくれた、自分がその厳しさだと思って言った言葉ってひどさに受け取られている人もいると思うから、それってこの人はこういうふうに言ったらひどさになるんだろうなって思ったことは言わないかもしれないけど、自分が言われた時に、これ厳しさだと思って、相手はひどさと捉えることがあるから。それってわからないじゃないですか、相手がどういうふうに。だから、100%厳しさって、厳しさって相手が思うだろうなっていうのはないと思うんですよ。

人それぞれ、何か、あったかいと暑いと、ここの教室あったかいねと思っている人もいるかもしれないし、もしかしたら、暑いねって思っている人もいるかもしれないし、それって人それぞれ感じ方が違うから、その一、厳しさ、ひどさというのは、その一何かくつきり白黒つけることはできないんじゃないかな。」(95Q)

Q児「それって例えば行き過ぎているかもしれないけど、それは犯罪ですよというのは例えば法律で決まっているじゃないですか、でもそれって人それぞれ、心を持っていて、感情とかが違う中で、そういうのを決めてしまうと、納得していない人もたくさんいると思うし、逆に納得する人もたくさんいるから、そういうのは、境目っていうのは、決めている人の、例えば久下谷先生が、ここからここは厳しさで、ここからここはひどさと決めますよと言われても、でも言われた人って、“あ、これはひどさって決まっているけど、きびしさじゃない?”としたりすることもあるから、違うと思う。」(97Q)

Q児は、人によって受け取り方が違うと述べているように、このやりとりの直前にあった“厳しさで言ったつもりが、それを相手はひどさと受け取ってしまうのではないか”といったこととも関連付けながら語っている。また、厳しさとひどさの明確な境目については、人それぞれが心を持ち、感情とかが違うことから決めることはできないと、その理由を説明している。

なお、その後も、“自分が思ったことは単刀直入に言ったほうがよいか”についての考えを聴きあい、最後にファミリーごとに今自分が考えていることを伝えあい、この授業を終えた。

(2) 考察

問いの変化に着目しながら、子どもたちが、どのように探究を進めていったのかについての考察を行う。(1)では、4つの場面に区切って子どもたちの発言を記述していったが、その場面をまとめて示すと、以下のような流れで、子どもたちが探究を進めていったことがわかる。

- ①E児の問い『厳しいほどやさしさって濃くなるの?』について考えていく場面
- ②やさしさと厳しさ、ひどさの関係について再度考えていく場面
- ③厳しさを、ひどさと受け取ってしまうのではないかと考えていく場面
- ④M児の考え「単刀直入に言う」ことについて考えていく場面

①では厳しさとやさしさの関係について考えており、②では、さらにひどさも加えて、それぞれの関係について互いの考えを聴きあいながら考えを進めている。ある概念Aについて探究する際には、単にAばかり考えるのではなく、nonAと対比させたり関係づけたりしながら考えることによって、Aの特徴が顕在化し、その理解が深まるが多々ある。このような観点から子どもたちの探究を見ると、やさしさと厳しさ、ひどさについて、時に対比し、時に関係づけながら、やさしさとは何かについて探究し

ていく姿が見られた。

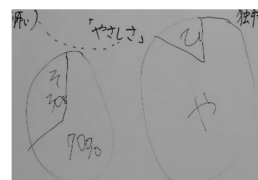
また、③では、“やさしさとしての厳しさのつもりで相手に伝えても、相手の受け取り方によって、それはひどさになってしまうことがある”ということについて考えており、④では、③を踏まえた上で、どのように相手に思ったことを伝えるべきか、“単刀直入に言うことがよいことか”について考えを進めている。①、②ではやさしさそのものに関する概念探究が中心であったが、③、④では、他者との関係において、やさしさとして厳しさを、どう行動として表し、伝えていくべきかについて考えていく子どもの姿が見られた。そこでは、単刀直入に言ったほうがよいと考える子どもと、少し考えて、言葉を選んで伝えたほうがよいと考える子があり、考えの違いが見られた。また、たとえ伝え方を考えてから相手に伝えたとしても、やはり、相手の受け取り方によってその意味は変わってしまい、やさしさとしての厳しさがひどさになってしまうことがあると考えていく子どもの姿も見られた。

IV 終わりに

1 D児の言葉を受けて

『やさしさ』って何だろう?というテーマで行ってきた一連の授業において最初に出された考えは「僕は、やさしさの中に“ひどい”というものがあると思ってる。」であり、そのように話したのはD児であった。D児はその後の対話においても、以下のように常に人にはひどさがあると語っている。

D児「…(中略)…ちょっと図にかいていいですか。やさしさの中にもひどさがあるって、ひどさの中にもやさしさがあるっていうのは、確実とは言えないんですけど、あるんですよ。[図をかく]ヒーローとかもそうじゃないですか。悪者にもやさしさがあって、敵の仲間を強くするとか、ヒーローが変身する時にちゃんと待ってあげるとか。僕は見ていて、ヒーローにもひどいところがあるんですよ。ヒーローが出るから、悪者が出る。悪者がいるから、ヒーローが出る。スーパー戦隊とかだったら、ロボットになって、その間に、車とか壊したりしちゃっているじゃないですか、建物とか踏んじちゃったりして。けど、ヒーローはそれを修理したりしないんですよ。これはもう、悪魔なんじゃないかなって思います。やっぱり、やさしさにはひどさがあるじゃないかなと。」(18D)



D児「厳しさとひどさはちがんじゃないかなと思うんですけど。僕にとって厳しさは、人のためにやっていることで、ひどさは、殺人事件などで、誰か知らない人が亡くなるとしますよ、で僕は、ひどいところがちょっとあって、『あーそうなんだ』と思うだけで。みんなもそう思ってるんじゃないかなとも思って、けど、みんなはそうじゃないのかなと悩んで。ひどさは独特だし、自分にも必要かなと思って。僕にだって、これを言ったらみんなはひどいって驚くかもしれないとか、色々な意見を考えて。あーこれはひどさはいるけど、厳しさは死んだら意味なんじゃないかなと思っちゃうんです。僕も嘘をついたり、秘密を隠したりすることもあるんです。ひどさは、『こんなことをしてないよね。』って聞かれて、『うん、してないよ。』っていうけど、実は裏ではやっていたり。厳しさの時は、親に何か言われた時、正直死んだら意味ないのになあと思ったりするんですよ。で、僕は、よし、今はちゃんと楽しく生きなくちゃなと思うんです。僕にはひどいところがあるんですよ。」(50D)

D児「…(略)…あるにはあるんですよ。エーとやっぱり、厳しさもひどさも、違うというのはあっていると思うんですよ。ひどさは、やっぱり僕のような。まあ、ニュースがありますよ、で、『〇〇さんが死にました』って言ったら。」(36D)

D児『『亡くなりました』』って言って、何か殺人事件が起きましたよ。で、僕は、そういうのは全然どうでもいいと思うんですよ。はっきり言って、『こいつは死んでいいやつだから』とか考えちゃう人もいると思うんですよ。もし、無関係者の人が死んだとしますよ。」(39D)

D児「亡くなったとしますよ。皆さんはどう思いますか。」(41D)

D児「もし、嫌いな人が死んだら、どう思いますか。」(43D)

D児の問いかけに対して、47Dの発言の後、O児は、「でもひどいのレベル超しているでしょ。」(48D)と発言しており、続いて、私は以下のように発言をしている。

T「先生も話をしている、じゃあ。D君は前もそのことを投げかけてくれて、でも、たしかにさあ、日々、ニュースで流れて、ね、『何何さんが亡くなりました』、『何何さんが』ちょっとマイクを通して使う言葉としてはあれかもしれないけど、そのまま言うと、『殺されてしまいました』って言った時に、何となく、こう、テレビの、テレビ越しのこととして、今ね、関係のない人と言ったけど、その距離感によって、それがただ日々流れていくものとして、何も思わない、ってことって、前日も出てきたよね。例えば、何だろう、それを、1回1回、それに対して何か嘆いていたり、悲しんでいたらというのもあると思うんだよね。つまり、今、極端な話をすごく言ってくれたけれど、そういう意味では、人間には、そういうた、ある種ひどさといつていいのかわからないけど、そういうところがあるかもしれない、ね。…(略)…」(49T)

D児の問いかけに対して、私はその時、上記のように自分の考えを話している。話をしているが、私自身、てつがく対話に参加する一人として、非常に悩み、言葉を慎重に選びながら話をしていた。思っていることをどう表現しているのかわからない、そのような気持ちであった。D児は、やさしさとともに、人は誰しもひどさを持っており、その1つが無関心さであると、真っ直ぐな気持ちで指摘し、強く皆に問いかけているように感じた。

2 まとめと今後の課題

本研究では、『やさしさ』って何だろう?」をテーマに、てつがく対話を行った際の子どもの思考の様相を、対話を通した問いの変化に着目しながら、記述し、分析を行った。そこでは、子どもたち一人ひとりが持っている「やさしさ」に対する考えやイメージを聴きあいながら、「やさしさ」についての概念探究を行うとともに、他者との関係において、やさしさとして厳しさを、どう行動として表し、伝えていくべきかについて、それに対する考えの違いが顕在化することをきっかけに、さらに考えていく子どもの姿が見られた。一方、本研究においては、対話を受けて一人ひとりの考えがどのように変容していったのか(変容しないことも含めて)についての考察は行うことができていない。対話後の記述を含めて、その分析を行っていくことが今後の課題である。

なお、下記は、同じ学級で『当たり前』とは?』というテーマで授業をした際の、ある子のふり返りの言葉である。

「ぼくは、当たり前はあるけれど、人それぞれ違うと思います。自分が思った当たり前があるからこそ、他人の気持ちを考えようと思えるのだと思いました。なぜかというと自分にとっての当たり前と他人の当たり前が違うので、自分だけが思っている当たり前が他人から見ると当たり前ではないことがあるからです。」

「てつがく」を進めていく中で、“自分と他者は違うのだ”、“他者を完全に理解することなんてできないのだ”、そのような前提に立ち、わからない(わかりあえない)からこそ、相手の言葉を聴き、わかろうと努力していく、その謙虚さや粘り強さが“てつがくする”ことにおいて必要なのではないかと考えるようになった。そして、対話を通してテーマの探究を行うのであるが、テーマそのものを探究すると同時に、その過程において、他者の考えと自分の考えとの違いに気づいていくこと、そして、少しずつ少しずつかもしれないが、その感度を高めていくことがとても大切なことだと感じている。

「てつがく」の授業を通して、子どもたちの言葉を聴き、その記述を読んでいく。一つひとつじっくりと。じっくりと聴き、読みながら、子どもたちの考える力に圧倒されていく自分がある。子どもたち一人ひとりの真っ直ぐさに触れ、強く揺さぶられる感覚となる。そして、もっともっと子どもたちの言葉を聴いていたいと思う。

【引用・参考文献】

池田全之(2016)「“てつがくすること”を考えるため」NPO法人お茶の水児童教育研究会『児童教育 26号』

お茶の水女子大学附属小学校(2019)『平成30年度研究開発実施報告書(第四年次)』

お茶の水女子大学附属小学校(2019)『平成30年度研究開発実施報告書(第四年次)別冊資料』

てつがく対話における子どもの思考の様相

お茶の水女子大学附属小学校（2019）『新教科「てつがく」の挑戦：“考え議論する” 道徳教育への提言』東洋館出版社

お茶の水女子大学附属小学校，NPO法人お茶の水児童教育研究会（2017）『第79回教育実際指導研究会発表要項』

神戸佳子，久下谷明（2018）「てつがく対話における児童の発言について－対話分析を通して見えてきた論理性とケア的思考の深まり－」お茶の水女子大学附属小学校『研究紀要 第25集』pp. 13-31

竹田青嗣（2002）『哲学ってなんだー自分と社会を知るー』岩波ジュニア新書

フィリップ・キャム（2015）『共に考える』榊形公也監訳，萌書房

森田伸子（2011）『子どもと哲学を』勁草書房

森田伸子（2021）『哲学からく「てつがく」へ！：対話する子どもたちとともに』勁草書房

資料：授業プロトコル

授業記録は、2019年2月14日（木）と2月22日（金）に実施した授業に関するものである。なお、2月22日（金）は、『第81回教育実際指導研究会』（お茶の水女子大学附属小学校 公開研究会）での授業に関するものである。

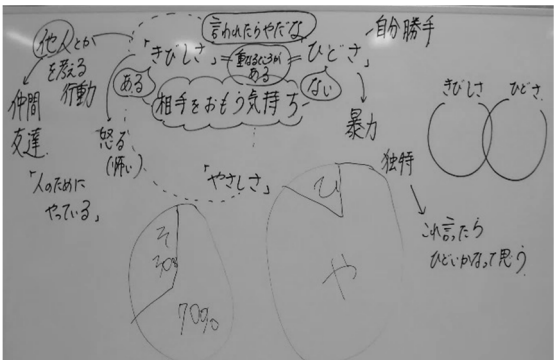
（＊「T」は教師の発言、「C」は特定不可能な子どもの発言、「C_c」は複数の子どもの発言、「（左記以外のローマ字）」は特定の子どもの発言、〔 〕は動作を表している。）

2月14日（木） 授業記録

<p>1T：やさしさって何だろうということを考えてきました、最初に、朝活動で対話をした後に、自分の考えを書いてもらいましたね。その後、『やさしさBOOK』を作ろうということで作って共有もしました。それで今日に至るわけですけども。まず確認しておきたいのは、A君が書いてくれているように、「やさしさは、思いやりとか誰かに対して思う気持ち」、Bさんの「やさしさとは、相手のことを思って行動すること」あともう一つは、D君が、「やさしさにはひどさがある」と言ったよね。それで、ひどさというのが、言葉で言うと、「厳しさ」の方がいいんじゃないかということも朝活動で確認しましたね。そんなことを含めていきたいと思いますけど。</p> <p>今日はですね、その中で、みんなから色々な問いが出てきましたけど、Eさんの問いについて考えたいと思っていましたんですけど、今日、Eさんはインフルエンザでお休みになってしまいました。ただちょうどビデオを撮っていますので、Eさんに伝えたいと思います。こんなことを書いてあります。“私はファミリーで話題になった、『厳しいほどやさしさって濃くなるの?』ということについて、みんなの意見を聞いて、話し合いたいです。みんなはどう思いますか。”この問いの意味がよくわかるよって人?</p> <p>2C_c：(挙手)</p> <p>3T：よくわからないよって人?</p> <p>4C_c：(挙手)</p> <p>5T：そうだよ。ちょっとこの問いの意味について4ファミリーで出てきたことなので、4ファミリーにちょっと説明してもらいたいと思います。</p> <p>6F：僕が『やさしさBOOK』に書いたことで、やさしさが強いとその分厳しくなるということが何か思いついた。厳しさには2種類あって、普通の厳しいだけというのと、やさしさの中の厳しいということがあって、そのやさしさの中の厳しさは、厳しいほどやさしさが濃くないんじゃないかと思いました。</p> <p>7T：それで何か議論になったわけだよ。ちょっとそれも話してくれる。</p> <p>8G：私は、厳しいほどやさしいのはちょっと違うかなと思っていましたんですけど、私の勘違いっぽくて。でも、私は、厳しいほど、やさしさはそのままの意味だと思っていたから、私的には、やさしさの中に厳</p>	<p>しさも入っているというイメージだったから、それは違うかなって思いました。</p> <p>9T：そうすると、厳しいほどやさしさが濃くなるというのはどう思う?</p> <p>10F：僕は、やさしさをどう表すかで分けて、厳しさで表すとか、言葉を使って表すとか、自分で行動して表すとか、そういうのがあって。厳しさは、厳しくなるほど、やさしさが濃くなっているんじゃないかって。</p> <p>11T：これについてはどう思いますか。今の話を聴いて感じることを、考えていること。</p> <p>12H：質問で、やさしさが薄くなるということはないから、濃くなるってどういうことですか。</p> <p>13F：書いてないけど、問いでそうなった。</p> <p>14T：そうか。Eさんはそういうようなイメージを持ったわけなんだよね。でもFくんは濃いという表現はしてないのか。じゃあちょっとみんなにきいてみようか。4ファミリーで起こったことについてみんなはどう思うのか。</p> <p>15I：反対ではないんですけど。やさしさって厳しさが、例えば手洗いうがいをしなさいと言われてしなかったらインフルエンザになっちゃう。でも、厳しさが行きすぎると、それはやさしさではなくて、本当に厳しさみたいになっちゃう。やさしさが入ってない厳しさみたいな。</p> <p>16J：やさしさが濃くなるというのは、たぶん、Eさんが今いないからわからないけど、濃くなるというかは強くなると思えたんですけど。それに私は賛成で。例えば、赤の他人がやさしくするよりかは、親がやさしくするほうが、やさしさがもっと強くなっているような気がするんですよ。それは厳しさというのが中に入っているから、あまり気づかないけど。そういう感じがして。何て言うんだろう。よく、お母さんやお父さんが、「あなたのためを思って言っているのよ。」とか言ったりするじゃないですか。そういうのはやさしさのうちに入ると思うから、身近にいる人ほどやさしさが強くなると思う。厳しさも。</p> <p>17K：私は、“やさしさが濃くなる”を言いかえると、“信頼性が深くなる”と思って。例えば、自分のノートに名前が書いてなくて、ノートを配っていた時に「これノートに名前書いていないから書きな」とか言わ</p>
--	---

<p>れて、それを自分が厳しいと捉えたら、そしたら毎回、ちょっとしたことを忘れたら、この人って毎回教えてくれるんだみたいな感じで、信頼性が深まると思う。</p> <p>18D：ぼくは親の説教なんていらぬ。もしも、人が死ぬとするじゃないですか、人が死んだらもうわからないじゃないですか、勉強してきたことも。もう、それ意味ないなら、僕は生きている間は好き勝手生きたいですね。学校にも行かずに、遊んでばっかり生きていきたい。お説教とか、ひどさがやさしさになるというのは合っているけど。</p> <p>ちょっと図にかいていいですか。やさしさの中にもひどさがあって、ひどさの中にやさしさがあるってというのは、確実とは言えないんですけど、あるんですよ。[図をかく] ヒーローとかもそうじゃないですか。悪者にもやさしさがあって、敵の仲間を強くするとか、ヒーローが変身する時にちゃんと待ってあげるとか。僕は見ていて、ヒーローにもひどいところがあるんですよ。ヒーローが出るから、悪者が出る。悪者がいるから、ヒーローが出る。スーパー戦隊とかだったら、ロボットになって、その間に、車とか壊したりしちゃっているじゃないですか、建物とか踏んじちゃったりして。けど、ヒーローはそれを修理したりしないんですよ。これはもう、悪魔なんじゃないかなって思います。やっぱり、やさしさにはひどさがあるじゃないかなと。</p> <p>19L：ちょっと話が戻るんですけど。濃くなるというのは、他人に対するやさしさの思いが強くなってくるとか。例えば、僕の家のこと。弟がいるんですけど、家に帰ってきた時に、いつも勉強しないで遊んで、僕は家で勉強していると、遊んでてむかつくんですね。自分は勉強しているのに、弟は帰ってきてから勉強することあるのに勉強しないで。最初は「勉強しとかなないと後々大変になるよ」ってやさしさにちょっと、ひどいが混じってるということなんですけど、だんだん、それでも聞かないと、それこそ、やさしさが濃くなるとともに、ひどさがそれと一緒に増えていくっていう連動していると思うんですけど。やさしさを思う気持ちが、増えていくと、その中のひどさもだんだん増えていくから、そうだと思います。</p> <p>20T：ひどさと厳しさ。ひどさって、単純にひどい？</p> <p>21L：いや、厳しさ。</p> <p>22M：Dくんが言っていたスーパーマンの悪を倒すために建物を壊して、その建物を壊して修理しないのが悪、ひどいんじゃないかなというのは、僕は間違っていると思うんですけど、スーパーマンだって悪役の人を倒すために、戦っているわけで。…(中略) …悪と戦っているわけだから、ひどいとかは言わないと思う。</p>	<p>23N：昔やっていた、〇〇戦隊〇〇ジャー。…(中略) …周りの人を助けるために、一部の人を犠牲にしていると思うんですよ。それでひどさがあるかなって。</p> <p>24B：ずれてずれてずれまくってる。</p> <p>25T：ずれてるって、どういうこと？</p> <p>26O：ヒーローものになっちゃってる。</p> <p>27P：もどそうよ。</p> <p>28T：ちょっと整理すると、Dくんが言った、ヒーローでもひどさがある。もしかしたら、やさしさとやっていった時に、そこに、厳しさなのかひどさなのか、ひどさになってしまう時もあるかもしれないんですけど、そういうものをヒーローももっている。</p> <p>29T：やさしさと厳しさの関係。そして、それがひどさとどう関係しているのか、その辺りについて、もう少しちょっと聞いていきましょか。</p> <p>30Q：よりなんかやさしくしようと思う時って、自分が何でも買ってあげるよと言われてたら、やさしいと思うかもしれないけど、やっている方って、無理してやったりとかして、両方ともやさしいと感じられないけど、その人のために、Jさんが言ってくれたみたいに、自分が後々、その時頑張ると、後々楽になったとか、勉強とかも先にやっちゃえば後で遊べるし、自分に返ってくると思うから。てつがくのふり返りにも書いたんですけど、やさしくされる時もする時も、自分の未来のために、相手からされる時は厳しくされるし、自分が、やさしくする時も厳しく、何て言うの、採点する観点みたいなのを厳しくすると、その人が後々楽になるし、やさしさが濃くなるというか深まると思うんですけど。やさしさの密度が深まると全体の量が増えて。そうすると厳しさも増えるから、やさしいとより感じる時こそ、厳しさというのは、どんどん多くなってくる。</p> <p>31R：ちょっともとに戻ってしまうんですけど。厳しさが大きくなるほどやさしさが大きくなる・・・忘れちゃった。</p> <p>32T：いいよ。大丈夫。ちょっと待って。大丈夫。</p> <p>33S：ちょっと戻っちゃうんですけど、やさしさとひどさが連動しているって言ったんですけど、やさしさが大きくなるとひどさも大きくなるって言ったんですけど。私はそこにあまり賛成じゃなくて。やさしさにひどさがあったら、そもそもそれはやさしさじゃないんじゃないかなって思って。そうじゃなくて、ふつうにやさしさが大きくなったら、ひどさは減っていくと思っていて。何でかという、ひどさの中にあるやさしさって、人のために注意していることだけど、その時のひどさって言葉がきつくなるということだと思うんですけど。やさしく怒るというようなそういう時の怒り方は、怒っているかもしれないけど、結局怒っているという部分は少なく、その人のために怒っているわけであって、あまりやさ</p>
---	---

<p>しさとひどさは運動していないと思う。</p> <p>34T：今の考えについてどう思いますか、みんなは。</p> <p>35J：やさしさとひどさというのは、Sさんがいったように運動してないと思って。逆にさっきみんなが言ったやさしさと厳しさというか、前に、1月21日の時に、Dくんの言ったようなやさしさにはひどさがあるといったことに賛成したんですけど、前の朝の活動の時に変わって、厳しさ、うーん何かひどさというのが、厳しさに置き換えられると思っていて、それで、だから、L君が言っていることもあると思うんですけど、厳しさも運動している感じだから、少し反対って感じ。</p> <p>36T：ちょっとさ、言葉を整理しようか。厳しさとみんなが使っている時の厳しさと、ひどさって言った時のひどさ。個々に、言葉に込められている感じが違うように思うんですけど、厳しさとひどさの違いってというのはどういうことですかね。</p> <p>37G：厳しさは相手を思う気持ちがあるけど、ひどさは相手を思う気持ちがないから、厳しさとひどさは一緒じゃないと思います。</p> <p>38U：厳しいというのは、怒る時とか厳しいけど、ひどいというのは、暴力とか人が嫌がるようなことをするのがひどいと思います。</p> <p>39T：今言ったことに関して、そうじゃないよっていうのもあれば出して。それで、言葉なので、ある程度皆で共通で、この言葉はこういうふうにならねえ2組としては使っていこうというのを決めましょう。まあ、使っていく中でずれていくこともあるけど。</p> <p>40Q：最初に言ったGさんのに反対なんですけど、厳しいとひどいって何か分類的にはやさしいと違って、ちょっと言われたら嫌だなみたいに、大きな分類的には同じのように思うんですけど、厳しいというのもひどいというのも、自分に言われるので、ひどいことをやられたり言われたりするのには理由があってそういうふうになっていたり。例えば、お母さんに厳しく怒られたりとかするの、怒られるような理由があって、ひどいというのも、何か理由がなきゃやらないじゃないですか。何かを。だから、理由があってやっているんだから、二つとも理由があって。厳しいの方が、相手のことを思って、やり方をかえているっていうのかな。相手に、それこそむかついたから殴るとかじゃなくて、「こういうところが嫌だからやめてよ」って厳しく言うかもしれないけど。言葉は悪いけど、殴ったり蹴ったりするというのは、ひどいに入るから、やり方が変わる。</p> <p>410：厳しさとひどさのところ、僕もてつがくのプリントに書いたんですけど。厳しさというのは、コーチのような人がいて、他の人は普通に接して、一人だけ厳しく接すると、その人は成長して。厳しさとひどさは完全に同じじゃないんですけど、一</p>	<p>部重なっているところがあって、それで、厳しさとひどさは、厳しさは強くなっていくとひどさになって。野球とかでも、時々ニュースであって、監督とか、球が打てなくて暴力したりがあるじゃないですか。それは、僕はひどさだと思うんです。その一歩手前とか、その、蹴るとかの手前だったら厳しさだと思うんですけど、蹴るとかしちゃうと、逆に、それを通して野球ができるようにはなるかもしれないけど、選手に対して傷つけちゃったり、心が傷ついちゃったりするから。厳しさが強くなるとひどさになると思う。</p> <p>42T：そうすると、これ、図が適切かわからないんだけど。</p> <p>43C：ベン図だ。</p> <p>44T：このイメージでいい？</p> <p>450：はい。</p> <p>46T：そうすると、厳しさが強く、暴力みたいになっていくとこれはひどさになってしまうということ？重なる部分が出てくるということ？</p> <p>470：(頷く。)</p> <p>48K：私的には、ひどさっていうのは結構自分勝手な行動で、厳しさって、仲間とか友だちとか他人を考える行動だと思う。</p> <p>49W：私はGさんの考えに賛成なんですけど。私はやさしさって相手の立場に立って思うことが大事だから、厳しさはそれがあるから、やさしさの中に厳しさは入るけど、ひどさにそういうことってあまりないから、やさしさの中に入らないんじゃないかなって。</p> <p>50D：厳しさとひどさはちがんじゃないかなと思うんですけど。僕にとって厳しさは、人のためにやっていることで、ひどさは、殺人事件などで、誰か知らない人が亡くなるとしますよ、で僕は、ひどいところがちょっとあって、「あーそうなんだ」と思うだけで。みんなもそう思ってるんじゃないかなとも思って、けど、みんなはそうじゃないのかなと悩んで。ひどさは独特だし、自分にも必要かなと思って。僕にだって、これを言ったらみんなはひどいって驚くかもしれないとか、色々な意見を考えて。あーこれはひどさはいるけど、厳しさは死んだら意味ないんじゃないかなと思っちゃうんです。僕も嘘をついたり、秘密を隠したりすることもあるんです。ひどさは、「こんなことをしてないよ。」って聞かれて、「うん、してないよ。」っていうけど、実は裏ではやっていたり。厳しさの時は、親に何か言われた時、正直、死んだら意味ないのになあと思ったりするんですよ。で、僕は、よし、今はちゃんと楽しく生きなくちゃなと思うんです。僕にはひどいところがあるんですよ。</p> <p>51T：先生もちょっといい。先生も考えたことを話していい？</p>
--	--

<p>52D: いいですよ。</p> <p>53T: D君が話してくれたことを聴いていて、Dくんは、ひどさと厳しさの違いは、自分なりに感じているわけだよね。</p> <p>54D: はい。</p> <p>55T: お家の人が言ってくれることは厳しさ?</p> <p>56D: そうです。</p> <p>57T: これ言ったらひどいかなと思う、ひどい自分が、つまり、自分の中にひどさというものを持っていて、これ言ったらひどいというのをわかっている。言うか言わないかを考える自分がいるの?</p> <p>58D: はい。</p> <p>59T: それって、みんなはどう?…(中略)…どう思う?何か、Dくんの問いかけて、先生もすごくドキッとするというか。つまり、どっかでひどい自分がいるのかなって思うんだよね。先生自身は、これ言ったらひどいかなって。みんなはどう思う?ちょっと、</p>	<p>後5分なんだけど、それぞれのファミリーで今D君が言ったことを含めて、みんなはどう考えるか、ちょっと話をしてみてください。</p> <p>60C: (ファミリーごとに話す。)</p> <p>→61C: (自分の考えをかく。)</p>  <p>写真: 板書記録</p>
--	---

2月22日(金) 授業記録

<p>1D: これからてつがくの授業を始めます。よろしくお願いします。</p> <p>2C: よろしくお願いします。</p> <p>3T: いつも言っているように、ここに座っているということで、一人一人、考える自律した人としてここに座って欲しいですけど。ちょっとね、前回のことを簡単に確認しましょう。(前回の板書記録を示しながら) 前回、やさしさとは何かということをやっている、そこで、やさしさには厳しさもある。その言葉としてね、ひどさという言葉も出てきて、それが対話の中で混在して、混ざって使われていたので、きびしさとひどさの違いは何だろうって確認しましたよね。その中で出てきたのは、厳しさというのは相手を思う気持ちがある。だけど、ひどさにはそういうものがない。それで、きびしさというのは、その一、何だろう、他人を考える行動、仲間とか、友達とか、人のためにやっていくような、そういう行動をきびしさをなんじゃないかと出てきました。一方、それに対して、ひどさといった時には、自分勝手な行動、自分のことを考えて相手のことを思っていないのがあります。Oくんがね、暴力とか言ってくれましたけど、コーチの例を挙げてね。それがひどさにあたるんじゃないか。で、やさしさの中にはきびしさが、こう含まれていく。相手を思う気持ち。その一方で、ひどさは、ここは、入っていないんじゃないか。もう一つ、きびしさとひどさの共通することというのは、その時は言われたら嫌だなという思いが出てくるのは、これはどちらも同じなんじゃないかというのが出てきました。それで、Dくんが最後の方で、ひどさというのは独</p>	<p>特。これ言ったらひどいかなって自分でも思ったりする、そういうところがあるよ、というのを言ってくれました。</p> <p>えっと、ちょっとね、前回の振り返りの記述を何人が、ざっと紹介したいと思います。そして、今日始めたいと思います。</p> <p>まずXくん、印象に残った言葉として、“Dくんの誰にでもひどさがある”ということも挙げていますけども、自分の考えの中で、“たしかにどの人間にもひどさはある。そしてきびしさもある”そういうことを書いています。どの人間にもそういうところがあるよって。そして、Yくんはこんなこと書いている。“僕は人間にはひどさというものが無いといけません。嫌なことをされ続けると、ずっとやさしいままではないし、怒ることは厳しさと違って、自分の身が嫌だと思っているからやるものだから、ひどさはいいものでも悪いものでもないと思います”そういう場合があるってということね。今のことっていうのは、人間の気持ちとして、人間の心の中には、当然厳しさもあるし、ひどさもあるし、やさしさもあるし、そういうことを言っているのかなと思いますけど。</p> <p>Bくん。“Dくんの発言の中のやさしさの中にひどさがあるというのは、もはや、やさしさではないのではないかと思いました”ひどさというのは、もはや、前回でも出てきましたね、ここは、やさしさには、ひどさは入らないんじゃないか、やさしさと考えた時には。</p> <p>Fくん。“厳しさはやさしさを表す1つの方法だと思っています。きびしさは人の気持ちを考えることができ</p>
---	---

るけれど、ひどさは自分の気持ちを落ち着けたり、自分のことしか考えないことだと思います。だから、きびしさとひどさはちがうもので、反対の言葉として使われてきたし、やさしさとひどさが、やさしさとひどさが、同じ円に入ることはない。そして、やさしさと厳しさが、円の中で、これが別々になっていることもない”ということが書いてある。ここが一緒になって、ここが離れているということではない？この文章。大丈夫？先生違っていたら違っていて。

4F：あってる。

5T：あってますか。はい。次、Hさん。“やさしさはひどさよりも厳しさが多いと思います。相手を思う気持ちが含まれるのがやさしさと厳しさだと思うので、ひどさはやさしさではないと思います。また、厳しさが多くなると、やさしさも多くなるというのは違うと思います。なぜなら、厳しさが多くなりすぎると、やさしさに入らなくなってしまうと思うからです。”厳しさが多くなりすぎるとやさしさに入らなくなっちゃう。

Gさん。“私は厳しさとひどさは違うと思う。分類的には似ているけれど、ひどさには相手を思う気持ちがないので、やさしさとは違い、きびしさには言い換えられない。やさしさのある厳しさがエスカレートしていくとひどさになると思う。だから、厳しいほどやさしいというのは違うと思う。ベン図で表していたけど、私は、重なっているところはないと思うから、階段とかのイメージ。”

Cさん。“私は自分の感情の中にもひどさがあると思う。例えば、これって言ったらいらなくなるかなと考えてしゃべるということが私は頻繁にあります。私は厳しさとひどさは似ているところと違うところがあると思う。だから、よくどのくらいまでが厳しさに入るかということを考えています。厳しさとひどさは、大きく分けると、Qさんが言うてくれたように、言われたいやだなと思うところが似ていて、相手を思う気持ちがあるかないかというところが違うと思います。”

今日のスタートは、前回の続きとして、やさしさを考えてきたわけですけど、このきびしさとひどさ。やさしさを考えていく時の、きびしさとひどさのこの関係、違い、何ていったらいいのかな？それって何なんだろう？

これは厳しさ、これはひどさ。この関係、違い、その辺りについてみんなはどういうふうに思っているのか、最初きいていきたいと思います。何人かは書いてあったけど、いい？ちょっと1分間、自分の中で考えてみて。

6C₀：（1分間、それぞれが静かに考える。）

7T：じゃあ、ちょっときいてみようか。どう思います

か。同じことでもいいし。誰からでもいいですよ。

8H：私は、やさしさときびしさが近くて、やさしさとひどさはちょっと違うものだと思うんですけど。きびしさというのはやさしさも含まれていると思うんですけど、だけど、ふり返りにも書いたように、厳しさの中にいくらやさしさが入っていても、厳しくなりすぎると、ひどさになってしまうんじゃないかなと思う。

9W：私は厳しさは、Hさんと同じで、やさしさに近くて、相手のことを思っている行動で、ひどさは自分勝手な行動をすることだと思います。

10Q：えっと、まず、ひどさと厳しさって、今まで、前回と今話しても何か、同じような種類みたいな感じで、同じところもあるけど違うところもあるって話してたけど、私は根本的に種類が違うと思うんですけど。例えば、何か、食べ物とか、何か、消しゴムとリンゴって、何も共通しているものはないじゃないですか。

11C₀：えっ？（少しざわつく。）

12T：ちょっとざわつきもあるけど。いいよ、続けて。

13Q：何か、何か。細かくすればそれはあるかもしれないけど、パッと見て全く違うし、消しゴムは食べられないけどリンゴは食べられるとか。色んなのがあるじゃないですか。それで、その、厳しさとひどさも、細かく細かく見ていけばあるかもしれないけど、大きく、その中で分けてみると種類が違って。厳しさって、その、厳しさって普通に何も考えなくても、何か、「これは違うでしょ！」って言っちゃうことがあるじゃないですか。そういうのは、相手のことを何か、まあ、その場にあったことをやっているかで、相手のことを思ってやっているけど、ひどさって何か、この人こうだけど、あっじゃあ、こういうふうにして傷つけようとか、そういうふうには思わないと出てこない言葉とか、行動とかだと思っから、種類がもともと違うと思う。

14T：今、Qさんが伝えようとしていることはわかる、みんな？わかる？

15C₀：ちょっと。

16T：伝わる？伝わった？伝わったよーって人？

17C₀：（挙手なし）

18T：ちょっともう1回聞きたいなあって人？

19C₀：（多数が挙手）

20T：もう1回。いいよ、大丈夫。2回言えば伝わると思う。同じことだって。同じことじゃなくてもいい。言ってごらん。

21Q：何を言ったか覚えてない。

22C₀：えー。

23T：じゃあ、Qさんがさあ、言ったことって、こんなことじゃないってわかる人？

24J：たぶんなんですけど。厳しさは、その、何ていう

<p>のかな、自然に出てきちゃう言葉。それでひどさってというのは、何とかしたい、例えば人を無視しようぜとか、そういうのは考えないと思いつかない言葉、考えないと思いつかない行動とかがひどさって言うていたんですけど。私の意見も言っているいいですか。</p> <p>25T: まず、それに対して、何か。</p> <p>26Q: えっと、ひどさって、あっ、きびしさってというのは、普段、相手の行動とか、言葉を聞いていて思うことってあるじゃないですか。例えば、私が今意見を言っている時も、こうなんじゃない、違うんじゃないとか、なるほどって思っている人もいると思うんですよ。それで、何か、私が間違っていること、きびしさという漢字はありませんとか、間違っていることを言っていたら、違うんじゃないって言うことあるじゃないですか。それって、その人が勘違いしてたりとか、していることを、他の場所で恥ずかしい思いとかをしちゃうと思うから、こうだよって教えてあげたりするのって自然に出てきたりする言葉だと思うけど、ひどさってというのは、その、「そんなの間違っているでしょ」とか「絶対違う」とか、少し考えて、あっこの人にこういうことを言おうとって言ったりとか、考えて行動したりしないとできないことがひどさなんじゃないかなって。</p> <p>27X: 関連。えーと、間違っていると指摘した本人は、これは厳しさと思っていても、言われた人には、それはひどいなあって思うこともあるだろうし。例えばさっき言った漢字の間違いの時も、まあ、何も考えずに「それ違うんじゃない」って強く言っちゃったりしたら、うっかり出た言葉で指摘した人は厳しさだと思っているけど、言われた人は、強すぎてひどさにはしか聞こえないということもあるから、Qさんの言っていることは違うと思う。</p> <p>28T: 今、X君が、厳しさ、やさしさとしての厳しさで言ったつもりが、相手にとっては、それがひどさと受け取っちゃうんじゃないかって言った時に、何人かが、うんうんって頷いているんだけど。これについてみんなはどう？そう感じる時ってある？今のことについてどうですか。ちょっと聞いてみようか。ね。はい。</p> <p>29J: 私は、前ふり返りに書いたんですけど、例えばその、一人の人が、そういう意図なんかなくて、ひどい言葉と言っちゃったりして、それで、うーんと、それを受け取った人が、ひどいこと、例えばある子がいて、ある子というか、周りの人はひどいことを言っていないつもりだったのに、ひどいことを言ってしまったというか、そういうふうを受け取った人は、たぶん、そのもう一人の人に投げ返すと思うんですよ、ひどい言葉を。</p> <p>それで、でも、それは、また続いていくから、ひどさってというのは、何か、きびしさはあんまり、連動</p>	<p>とつか、こう、言われ返すってというか、ずっとこう繰り返してじゃないし、「これ違うんじゃない?」、 「うん、そうだよ」みないになるけど、でも、ひどさは、なんか、ずっとひどさは言い合っていくみたいになっているから、ひどさは連動していくみたいになると思う。</p> <p>30T: ひどさは、連動していつちゃうんじゃないか。</p> <p>31K: えっと、私も、その、えっと、あっ、その、ひどさが、もともとはきびしさで言ったはずなのに、ひどさと捉えちゃったというのはわかるような気がして。その、何か、前D君が言ったと思うんですけど、ひどさとかきびしさって、個人が言うから、独特の表現とかで、捉え方も違うかもしれないし、その、なんか。その、なんか、もともとその、家では、そういうきびしさと捉えていたのに、学校ではひどさってなっちゃうとか。何かそういうことがあるから、何か、わかるような気がする。</p> <p>32D: あーあー。よし。えーつと僕は、やさしさ、あの一何って言えばいい?先生もう1回、どういうの今言うんだっけ?</p> <p>33C: (和む)</p> <p>34D: いやいや、それに関して、今、ちょっとど忘れしただけで。</p> <p>35T: 大丈夫、大丈夫。</p> <p>36D: あるにはあるんですよ。えーとやっぱり、厳しさもひどさも、違うというのはあっていると思うんですよ。ひどさは、やっぱり僕のような。まあ、ニュースがありますよ、で、「〇〇さんが死にました」って言ったら、</p> <p>37C: 亡くなりました。</p> <p>38C: 亡くなりました。</p> <p>39D: 「亡くなりました」って言って、何か殺人事件が起きましたよ。で、僕は、そういうのは全然どうでもいいと思うんですよ。はっきり言って、「こいつは死んでいいやつだから」とか考えちゃう人もいると思うんですよ。もし、無関係者の人が死んだとしますよ。</p> <p>40C: 亡くなった。</p> <p>41D: 亡くなったとしますよ。皆さんはどう思いますか。</p> <p>42C: (色々と呟く。)</p> <p>43D: もし、嫌いな人が死んだら、どう思いますか。</p> <p>44C: あっばれ。</p> <p>45C: あっばれは違う。</p> <p>46C: 顔を知っていたら。</p> <p>47D: (少し時間をとって) ひどいというのは、こういうことを言っているんじゃないかな、とか。一番ひどいと思うのは、泥棒が人質をとっています。金を出さずなら人質を返してやるっていう、金を出しました。けど、人質は銃で殺され、亡くなりました。で、その人は殺人鬼で強盗です。色々な人を殺して、引</p>
--	--

<p>つかかったなあと嘘をつく人もひどいんじゃないかなって思います。みんなもひどいと思うでしょ。</p> <p>480：でもひどいのレベル超しているでしょ。</p> <p>49T：先生も話をしている、じゃあ。</p> <p>D君は前もそのことを投げかけてくれて、でも、たしかにさあ、日々、ニュースで流れて、ね、「何何さんが亡くなりました」、「何何さんが」ちょっとマイクを通して使う言葉としてはあれかもしれないけど、そのまま言うと、「殺されてしまいました」って言った時に、何となく、こう、テレビの、テレビ越しのこととして、今ね、関係のない人と言ったけど、その距離感によって、それがただ日々流れていくものとして、何も思わない、ってことって、前回も出てきたよね。例えば、何だろう、それを、1回1回、それに対して何か嘆いていたり、悲しんでいたらというのもあると思うんだよね。つまり、今、極端な話をすごく言ってくれたけれど、そういう意味では、人間には、そういった、ある種ひどさといっているのかわからないけど、そういうところがあるかもしれない、ね。だからこそ、例えば何人かが言った、もしかしたら、その、これを言った時に、自分はよかれと思って厳しさと思っているんだけど、相手にとってはひどさと聞こえる。</p> <p>例えば、Cさんはそれを気にすると書いてあったよね。皆さんはどうですか。自分の普段の生活を見て、見つめた時に、そんなことを思ったりする？</p> <p>50C：する。</p> <p>51T：するよ？って人？</p> <p>52C：(大半が拳手)</p> <p>53T：それってどんな時？何かさあ、もうちょっと具体的な場面でごうだよってある？</p> <p>ちょっとさあ、ファミリーでその場所がいいから、少しちょっと話してごらんよ。</p> <p>54C₀：(およそ2分間、ファミリーで対話する。)</p> <p>55T：ちょっとどんな話が出たのか、ね、話してもらいたいんですが、ちょっとね、先生今ここで聞いてて、ちょっとそれぞれ、主張が割れたというか、割れてはいるのかもしれないけど、何かね、あったんで、この二人、どちらから言う？</p> <p>56L：M君。</p> <p>57T：M君からいったほうがいい？</p> <p>58H：M君に言いたい。</p> <p>59T：M君に言いたい？</p> <p>60H：(頷く。)</p> <p>61M：えっと、あの一、僕は、その、厳しさとか、ひどさ？ひどさっていうものはいちいち考えなくても、自分が思ったことを単刀直入みたいな感じで言った方が、人のためにもなるし、自分のためにもなるし、そうなるちょっと成長するから、単刀直入に、やっぱり、そういう考えないで、相手のことを考えない</p>	<p>いで、ちょっとは考えるけど、考えすぎないで言った方がいいのかなって思います。</p> <p>62T：今の伝えたいことわかる？</p> <p>63C₀：(頷く。)</p> <p>64T：単刀直入って言葉もオッケー？</p> <p>65C₀：(頷く。)</p> <p>66T：それに対して、どう思う？みんな。</p> <p>67M：じゃあ、Hさん。</p> <p>68H：単刀直入に言う相手のためになるというのは私はいいと思うんですけど、やっぱり、相手がもしそれで傷ついたら、相手のためになるっていうのが、何かちょっと違ってきちゃうんじゃないかなって思った。</p> <p>69M：えっ、はいはいはいはい。</p> <p>70H：やっぱり相手のことを考えて、その上で、相手のためになることを言う、言わないと、相手が傷ついたら、あんまり意味がなくなっちゃうんじゃないかなって思った。</p> <p>71M：えっと、えっと、その傷ついたなら、傷ついた側、傷ついたなら、傷ついた人に謝れば、そこで終わることだし、</p> <p>72C：いやいやそんな。</p> <p>73C：えっそれは。</p> <p>74C₀：(ざわつく。)</p> <p>75M：まあ、傷ついたことわかんないっすね。</p> <p>76T：でもさあ、傷つけちゃうことってあるよね。</p> <p>770：例えば、先生も。</p> <p>78T：先生も傷つけちゃうことある？ごめん。</p> <p>79D：ないっすよ。</p> <p>800：いや、そうじゃなくて。</p> <p>81T：何？そうじゃなくて。</p> <p>820：いや、大丈夫です。</p> <p>83C：(笑う。)</p> <p>840：Dくんがなんか黒板に・・・。</p> <p>85C：(一部笑う)</p> <p>86C：あー。</p> <p>87D：黒板に何だって？</p> <p>88T：あー、それは、それは後で説明する。全国の先生に。あれね。完全な先生の大変なミスです。</p> <p>89C：先生の重大なミス。</p> <p>90T：はい。そうです、あれは。ただ、先生のミスで、この場がバーツとなるのはダメだから、ちょっとストップ。はい。</p> <p>でも今のM君の考えに対してみんなはどう思う？今、バーツと手が挙がりましたよね。</p> <p>91I：私はM君の意見に賛成で、例えば友達と一緒に歩いていて、例えば友達がお母さんからお金を渡されたけど、何かもしもの時しか使っちゃだめだよと言われているのに、何か、わかんないけど、そういう危険なことをしようとしている時に、考えていたら、</p>
--	--

<p>友達が後から怒られちゃったりするから、まあ、その、そういう時は、ちゃんと言った方がやっぱり、M君が言ったように、自分のためにもなるし、相手のためにもなるから。</p> <p>92L：えっと、例えば、僕のサッカーの試合とかで、誰かが外したりすると、例えば僕が、「何やってんだよ」とか「外すなよ」とかいうと、そういう言い方だと、相手はひどいと思ったりして、例えば今度僕が外した時、その僕が言った相手も、「お前だって外してんじゃねーか」みたいな感じで、「何やってんだよ」って、どんどん、それで何て言うか、エスカレートしてくるけど、ちょっと言い方を変えて、「もうちょっと隅、ねらった方がよかったんじゃない」とか言って、「次は頑張ろうね」とか言ったら、あの一、僕が外しても「ドンマイ！」って言うだけで終わると思うから、あの一、ちょっと言い方を変えるだけでも変わってくるから、僕は考えたりはする。</p> <p>930：えーっと、Mくんがさっき言ったことに反対なんですけど、別に謝っても、ちょっとすごい傷ついちゃったら、その人は、謝っても、許さなかったりするかもしれないから、ちょっと、その一、Mくんの言ったのはちょっと食い違っちゃうのかな。</p> <p>94P：単刀直入に言うことはいいことと悪いことがあって、言われたら嬉しいことは、例えば、「服がかわいいね」とか、そういうことだと思うんですけど。でも、その、悪気はなくて言っていることでも、相手は、これ言われたくないなっていうことがあると思うから、単刀直入に言う時は、よく考えて、自分ももしこれを言われたら、嬉しいかな？それとも嫌かな？って、ちょっと考えて言うから、単刀直入に言うのは、あんまりいい意見じゃない。</p> <p>95Q：Mくんが言った単刀直入に言うというのと、Hさんが言った少し考えてから言うのも、どちらもメリットデメリットがあると思うんですけど。自分が、Xくんが言ってくれた、自分がその厳しさだと思って言った言葉ってひどさに受け取られている人もいると思うから、それってこの人はこういうふうに言ったらひどさになるんだろうなって思ったことは言わないかもしれないけど、自分が言われた時に、これ厳しさだと思って、相手はひどさと捉えることがあるから。それってわからないじゃないですか、相手がどういうふうな。だから、100%厳しさって、厳しさって相手が思うだろうなっていうのはないと思うんですけど。</p> <p>人それぞれ、何か、あったかいと暑いと、ここの教室あったかいねと思っている人もいるかもしれないし、もしかしたら、暑いねって思っている人もいるかもしれないし、それって人それぞれ感じ方が違うから、その一、厳しさ、ひどさというのは、その一何かくっきり白黒つけることはできないんじゃない</p>	<p>かな。</p> <p>96T：きびしさ、ひどさというのは、これは、ここまでは厳しさ、ここまではひどさ、それってというのは、はっきり区別はつけられない？</p> <p>97Q：それって例えば行き過ぎているかもしれないけど、それは犯罪ですよというのは例えば法律で決まっているじゃないですか、でもそれって人それぞれ、心を持っていて、感情とかが違う中で、そういうのを決めてしまうと、納得していない人もたくさんいると思うし、逆に納得する人もたくさんいるから、そういうのは、境目ってというのは、決めてる人の、例えば久下谷先生が、ここからここは厳しさで、ここからここはひどさと決めますよと言われても、でも言われた人って、“あ、これはひどさって決まっているけど、きびしさじゃない？”と思ったりすることもあるから、違うと思う。</p> <p>98J：えっと、M君の単刀直入に言うというのは、私的には、ちょっとそれは何か嫌だなって思うところもあって。もちろん自分が、何て言うんだろう、言われて嬉しいこととか、言わないと自分の心がモヤモヤしちゃうとかってあるじゃないですか。そういうことは言った方がいいと思うんですけど。</p> <p>何か、私、塾の友達に、塾の友達3人と歩いていて、それで、成績順で席順が決まっているんですけど、成績順の私よりもその時、上の成績の子がいて、それで他の2人も成績が上なんですけど、一人の子を例に挙げて、器用だよねとか言っているんですけど、でもそれは、器用だよねと言っているんだけど、成績悪いから意味ないよねみたいことを言っていて、その、その、えーと言われた子はいなかったからいいってわけじゃないし、私も下だったから見下されているような気がして、そういうのは、厳しさって言うよりかはひどさという意味に捉えたほうがいいと思うんですけど。それは、何ていうんだろう、何か、考えて、人を見下すような言い方をしたら、誰だって嫌じゃないですか。そういうことを言われると、相手が気づいてなくても、言った人が気づいてなくても、言われている人とか、それに関係している人とかは傷つくと思うから、そういうのを気づいていないでさらさらって言われると、ちょっと嫌だなんて。</p> <p>99S：えっと、私は、Jさんに付け足しみたいになるんですけど、単刀直入に言うことは悪くはないと思うんですけど、その時に、さっきJさんが言ったみたいに、さらって言うのではなくて、単刀直入でも、例えば、何かを注意する時って、注意される時に怒られたらちょっとむかつくじゃないですか。でもその時に、普通に友達から、普通に言われた時って、たしかになあって普通に思ったりするじゃないですか。そういうふうな、単刀直入でも、何か、こう、</p>
---	--

<p>あんまり、少し、何か言葉を変えなくても、少し思いながら、少し優しくしゃべるとか、そういうふうにしたら、M君の意見でも、まあいいんじゃないかなって思います。</p> <p>100G：みんなが言っているMくんの意見で、私もそれはわかるんですけど、でも、謝ったとしても、それは言っちゃったという事実は消えないし、言われた方は覚えているし、考えればいい、考えて言うというのはそれが一番いいのかもしれないけど、そういうのって、何か結局、ふっと言っちゃたり、ふと言っちゃったりとか、ぱっと出ちゃったりするから、傷つけちゃうから、難しいかなって思うのと、あと、Qさんの線、境が決まっていけないというのは、私はちょっと反対で、何かやっぱり、一定の量を超えちゃったらひどさだけ、白黒で言ったら、グレーゾーンみたいなものもあるのかなって思います。</p> <p>101T：じゃあ、ちょっと時間が迫っているんで、一旦サークルの状態はこまでとして、この後、ファミリーで話してもらおうと思うんですけど、今の対話を受けて。M君が単刀直入に言う。Gさんが最後に傷つけてしまっでごめんねで、それで傷が癒えるの</p>	<p>かなというのもありましたよね。こう、何でしょうね、傷つけたいけないのかなあって、何かうまく表現できなんだけど。先生も今考えながら。</p> <p>102C：理由があるなら。</p> <p>103T：傷つけちゃうことってないのかなって。</p> <p>104Q：傷つけたくて傷つけているわけじゃない。</p> <p>105T：傷つけたくて傷つけているわけじゃない？</p> <p>106G：わざとじゃなくて、ただ単に言っただけで相手がちょっと思っちゃたりとか。</p> <p>107M：傷つける思いで言ったんじゃない。</p> <p>108T：あー傷つける思いでは言ってないんだよね。</p> <p>109C：うん。</p> <p>110C：そういう思いの人もいると思う。</p> <p>111T：あーそれはひどいよね。傷つけてやろうってね。じゃあちょっとさあ、このあたりを、ファミリーになって、サークルの中で発言していない人もいるよね。ファミリーになって、自分はこういうふうに思っているよ。少し話をして下さい。その後、紙を配るので、自分の考えを書いて下さい。</p> <p>112C₀：(ファミリーで3分ほど対話する)</p> <p>→113C₀：(自分の考えをかく。)</p>
---	--